

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 20 日

神奈川県知事 殿



提出者

住所 千葉県浦安市北栄4丁目20番10号

氏名 山一興産(株) 代表取締役社長 柳内光子

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-351-4121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	山一興産株式会社 相模工場		自主管理番号 (1037)
事業場の所在地	神奈川県座間市小松原1-41-5		TEL(連絡先): 046-253-2222
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	E21-窯業・土石製品製造業 (具体的には) 生コンクリート製造販売業		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	990 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)		
③ 従業員数	14		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	○ 戻り生コンクリート⇒持ち帰り破碎又は回収処理、脱水処理⇒中間処理場で路盤材として再利用 ○ 戻り廃生コンクリート⇒持ち帰り⇒中間処理場で乾燥破碎処理後RC材として再利用 ○ 混合廃棄物⇒金属くず⇒中間処理場で機械選別し有価物として売却処理 ○ 混合廃棄物⇒廃プラスチック類⇒中間処理場で機械選別⇒最終処分場にて安定型埋立		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

公害防止管理図 資料-1
産業廃棄物処理フローチャート図 資料-2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	産業廃棄物の種類数	3 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
	① 排出量	4,723.8 t	
	(これまでに実施した取組)		
	<p>戻りコンクリートの低減を図るため、事前(前日)打ち合わせ(打設数量、打設個所の確認、前回打設時の実績の確認)を現場担当者等に確認して精度を上げるとともに、生コンクリート打設当日に現場で作業している弊社の作業員とも無線で確認をする。</p>		
② 計画	【(令和5年度)目標】		
	産業廃棄物の種類数	3 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。
	① 排出量	4,135.0 t	
	(今後実施する予定の取組)		
	<p>弊社は生コンクリート製造会社であり産業廃棄物の排出の多くはガラス・コンクリートくず・陶磁器に分類されます。戻りコンの低減を図るため現場、販売店への事前確認(前日、前々日)打設当日の弊社現場作業員(ドライバー・試験課員)や現場立ち合い者との状況確認(生コンの追加時)の制度を上げるなどして戻りコンの低減を図っている。</p>		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<p>戻りコンクリートを硬化させた後に破碎。及び、戻りコンクリートを回収機にかけスラッジ水は脱水機にて処理しガラス・コンクリート・陶磁器くずとして排出。</p>
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<p>同上</p>

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
該当なし				
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
該当なし				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
(これまでに実施した取組)				
該当なし				
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
(今後実施する予定の取組)				
該当なし				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
	該当なし			
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
	該当なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	⑩ 全処理委託量		4,723.8 t	
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量		4,723.8 t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t	
	(これまでに実施した取組)			
	許可を得ている業者への委託を徹底している			

【(令和5年度)目標】			
② 計画	⑩ 全処理委託量	4,135.0 t	* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,135.0 t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	
(今後実施する予定の取組)			
許可を得ている業者への委託を徹底している			
※ 事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和5年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従つて記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

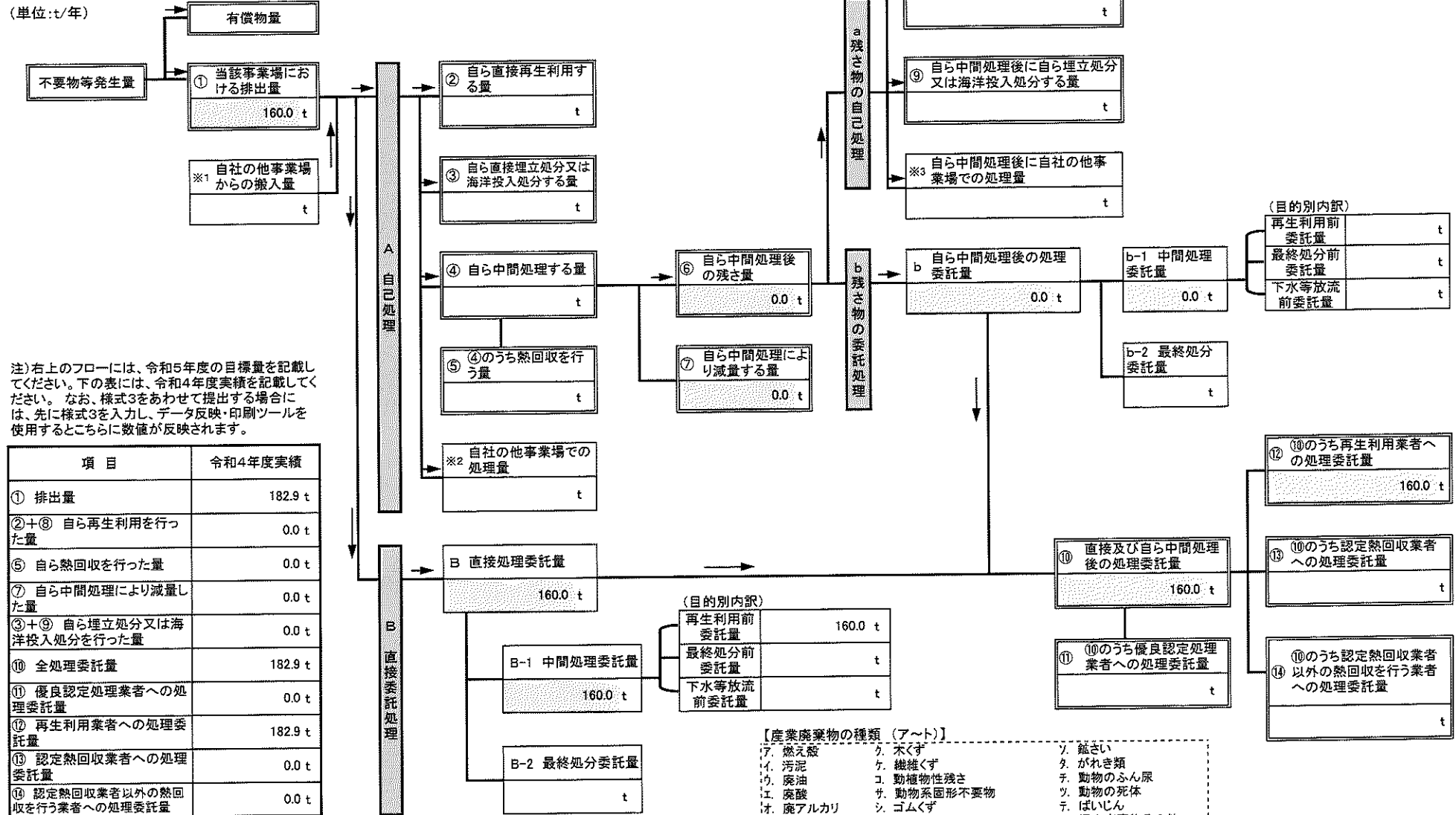
別紙処理フロー

事業場名称： 山一興産株式会社 相模工場

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類 **イ. 汚泥**
 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	182.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	182.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	182.9 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

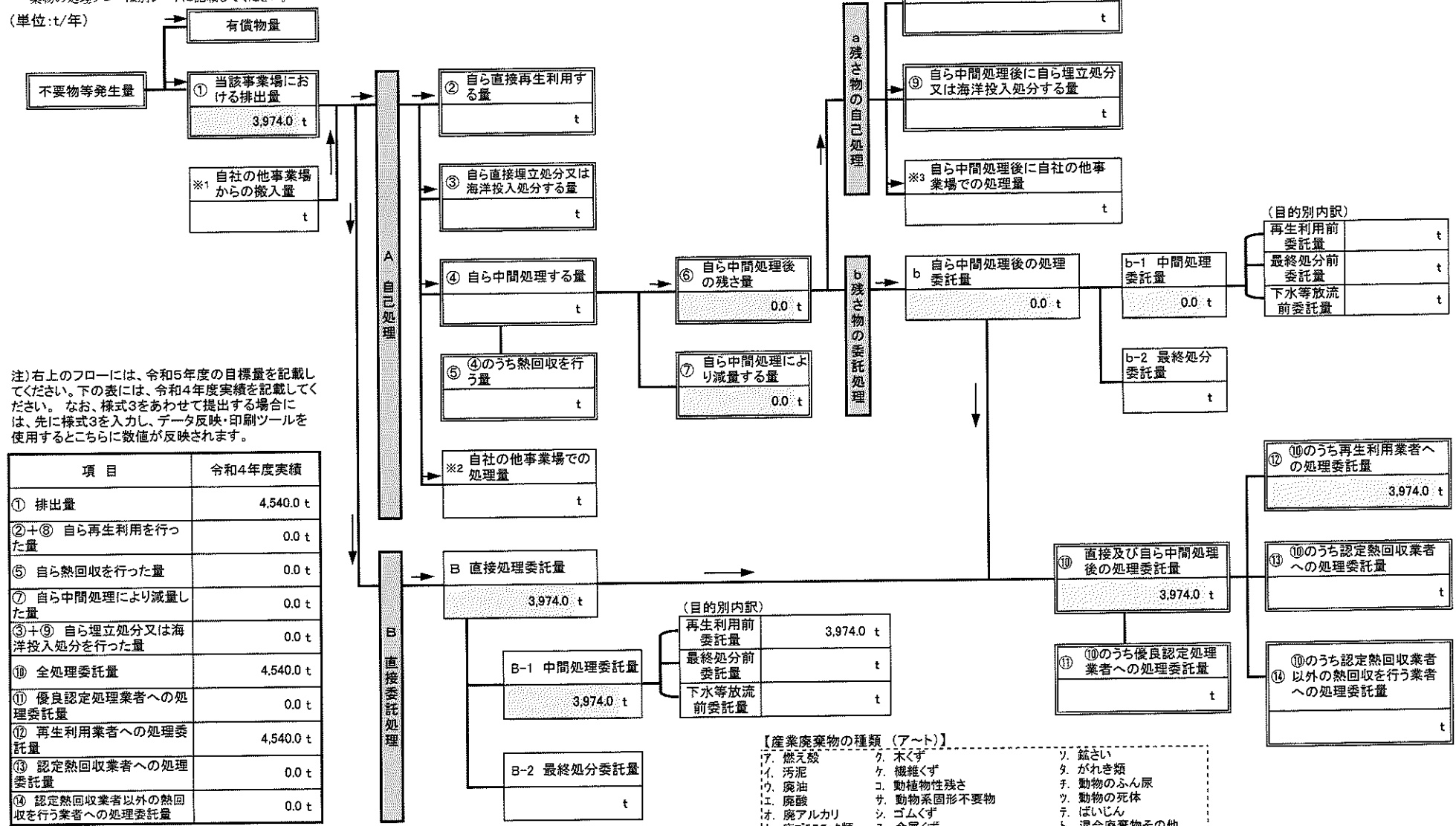
別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類
セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	4,540.0 t
②+⑥ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	4,540.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,540.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

事業場名称 : 山一興産株式会社 相模工場

別紙処理フロー

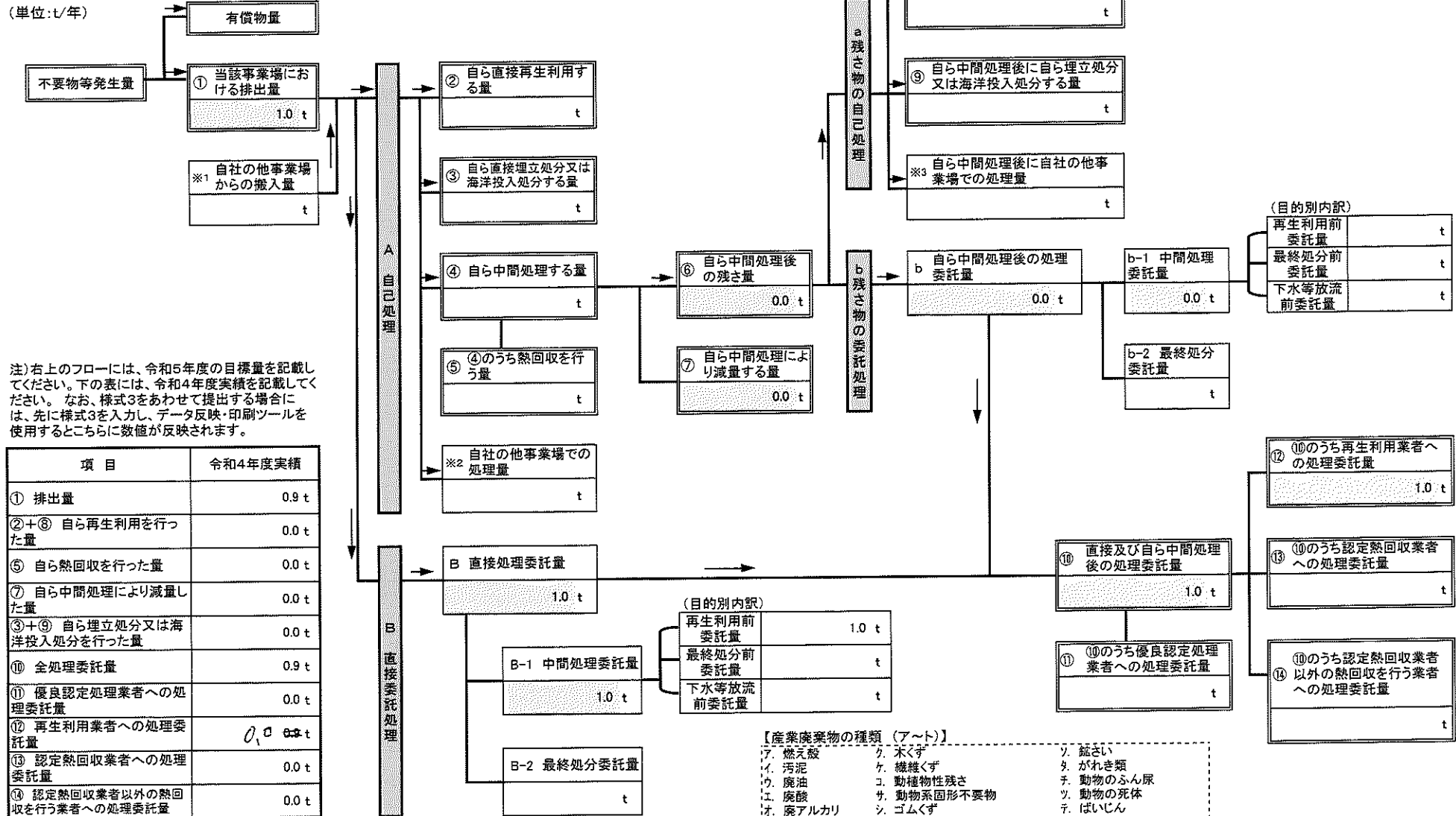
令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト、混合廃棄物その他
------------------	------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

事業場名称 : 山一興産株式会社 相模工場



注) 右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア 燃え殻
 - イ 汚泥
 - ウ 廃油
 - エ 廃酸
 - オ 廃アルカリ
 - カ 廃プラスチック類
 - キ 紙くず
 - ク 木くず
 - ケ 繊維くず
 - コ 動植物性残さ
 - サ 動物系固形不要物
 - シ ゴムくず
 - ス 金属くず
 - セ ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ 鋸くず
 - タ がれき類
 - チ 動物のふん尿
 - ツ 動物の死体
 - テ ばいじん
 - ト 混合廃棄物その他

産業廃棄物処理計画書

2-1	法定 ○	自主
-----	---------	----

別紙一括表

事業場名称: 山一興産株式会社 相模工場

(単位:トン)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	合計
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	鉛さい	がれき類	動物のふん尿	動物の死体	ばいじん	混合廃棄物その他	
令和4年度実績	① 排出量	182.9											4,540.0							0.9	4,723.8
	②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0											0							0	0
	⑤ 自ら熱回収を行った量	0											0							0	0
	⑦ 自ら中間処理により減量した量	0											0							0	0
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0											0							0	0
	⑩ 全処理委託量	182.9											4,540.0							0.9	4,723.8
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0											0							0	0
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	182.9											4,540.0							0.9	4,723.8
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0											0							0	0
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0											0							0	0
令和5年度目標	① 当該事業場における排出量	160.0											3,974.0							1.0	4,135.0
	※1 自社の他事業場からの搬入量																				
	② 自ら直接再生利用する量																				
	③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量																				
	④ 自ら中間処理する量																				
	⑤ ④のうち熱回収を行う量																				
	※2 自社の他事業場での処理量																				
	⑥ 自ら中間処理後の残存量																				
	⑦ 自ら中間処理により減量する量																				
	a ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量																				
	⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量																				
	※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量																				
	b 自ら中間処理後の処理委託量																				
	b-1 中間処理委託量																				
再生利用前委託量																					
最終処分前委託量																					
下水等放流前委託量																					
b-2 最終処分委託量																					
B 直接処理委託量		160.0											3,974.0							1.0	4,135.0
B-1 中間処理委託量		160.0											3,974.0							1.0	4,135.0
再生利用前委託量		160.0											3,974.0							1.0	4,135.0
最終処分前委託量																					
下水等放流前委託量																					
B-2 最終処分委託量																					
⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量		160.0											3,974.0							1.0	4,135.0
⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量													3,974.0							1.0	4,135.0
⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量		160.0																			
⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量																					
⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量																					

4722.9

総 則	名 称	公害防止規定	規定番号	QP-A13
			頁 数	3 枚中 2 頁

4. 公害防止及び環境保全

4.1 組織

図-1 及び図-2 による。なお、公害防止統括者は工場長とする。

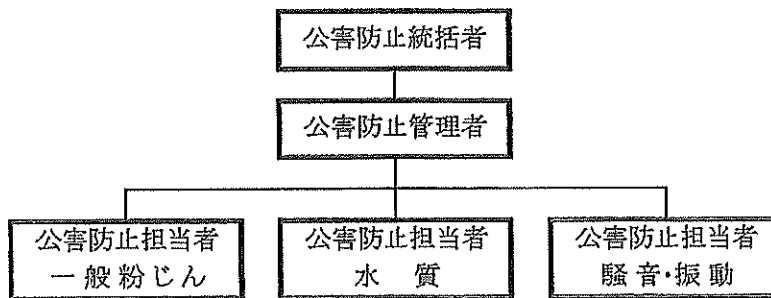


図-1 公害防止組織

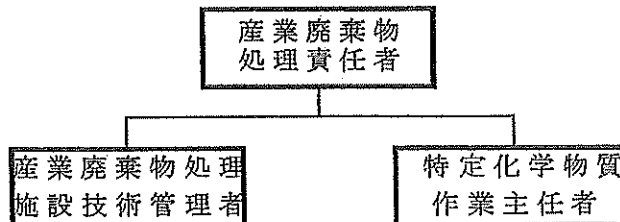


図-2 環境保全組織

4.2 選任

工場長は表-3 に示す必要とする資格等を考慮し選任する。

表-3 選任に必要とする資格等

区 分	必 要 と す る 資 格 等
公害防止統括者の代理者	特段の資格は必要なし
公害防止管理者及び代理者	1) 一般粉じん関係の資格認定講習を修了した者 2) 国家試験に合格して資格を取得した者
公害防止担当者及び代理者	1) 一般粉じん関係、水質関係、騒音関係又は振動関係の資格認定講習を修了した者 2) 公害防止に関する実務に2年以上の経験を有する者 3) 国家試験に合格して資格を取得した者
産業廃棄物処理責任者及び代理者	1) 産業廃棄物の処理に関する実務に2年以上の経験を有する者 2) 特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を取得した者
産業廃棄物処理施設技術管理者	1) 技術管理責任者のための講習を修了し技術管理士等の資格を取得した者 2) 廃棄物の処理に関する技術上の実務に10年以上の経験を有する者
特定化学物質作業主任者	特定化学物質等作業主任者技能講習、又は特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習を修了した者

資料-2

産業廃棄物処理フローチャート図

